

駒倉峠

安田 潤 詩・曲

♩=120

1 C G G7

な つに - なれ ば わか さの - うみ に い

6 C F C G7 C

さ りび も え - る - と うげ だ が は

10 C Am C Dm G G7

る に - - なっ て も て は ひび われ て い

14 C F C G C F C

え じは と お い と う げ の み ち

1 夏になれば 若狭の海に 漁火もえる 峠だが
春になっても 手はひびわれて
家路は遠い 峠の道

2 秋になれば 道端に
りんどう花咲く 峠だが
冬になったら 雪崩におびえ
吹雪に迷う 峠の道

3 沢に光る ネコヤナギを
見おろし歩く 峠だが
春夏秋冬（はるなつあきふゆ） 喜び悲しみを
背中に 背負い 峠の道

元中学校上世屋分校教諭安田先生の作品。駒倉（こまくら）とは上世屋よりさらに奥の集落であったが廃村。4回目のコンサートで発表。5回目のコンサートでは、上世屋婦人会のおばちゃん達が万感の想いを込めて歌った。